



立教神宣

—安政六年十月二十一日降下—

金子大明神、この幣をきりさかひに、肥灰さしこめるから、そのぶんに承知してくれ。外家業は致し、農業へ出、人が願出、よびに來、もごり、願がすみ、又農へ出、又もよびに來、農業するまもなし。來た人もまち、兩方のさしつかへに相成。なんご家業やめてくれぬか。

其方、四十二歳の年には、病氣で醫師も手をはなし、心配いたし、神佛に願ひ御かげで全快いたし、其時しんだごおもうて、慾を放いて天地金乃神を助けてくれ、家内もごけになつたごおもうてくれ、ごけよりまし、もの云はれ、相談もなり、兒供つれてぼごく農業しをつてくれ。

此方のやうに實意叮嚀、神信心いたしをる氏子が、世間になんぼうも、なん儀な氏子あり、取次助けてやつてくれ。神もたすかり、氏子も立ゆき、氏子あつての神、神あつての氏子。繁昌いたし、末々おやにかゝり子にかゝり、あひよかけよで立ゆく。